

災害ボランティアセンターについて

2016年4月8日
SL福祉部会・石丸吉彦

「ボラセンの開設」について9市町からSLが集まり、現状と課題を話し合いました。それぞれに地域の特性、自身のかかわり方に違いはあると思いますが、地元での活動するときの参考になればと思います

(大磯町、横浜市、海老名市、茅ヶ崎市、秦野市、藤沢市、鎌ヶ谷市、流山市、市原市)

1、あなたの地域では、地域防災計画の中に、ボランティア又はボランティア団体はどの様に位置づけられていますか？

- 、 平常時、災害時ともに記載されている・・・4
- 、 災害時のみ記載されている・・・3
- 、 記載されていない、その他・・・2
- ・ 特定の団体名で記載されており、社協と協力して訓練をしている
- ・ 特定の団体名ではなく、災害ボランティアの協力を受けると記載されている
- ・ 以前は特定の団体名であったが、人材を確保するため今は「災害ボランティア団体」に変更された
- ・ ボランティアの必要性は強調されているが、具体的な内容の記載がない

2、あなたの地域では、「ボラセン開設」の為に、平常時どのような活動をしていますか？

- 、 外部ボランティアの流れを確認する為の、ボラセン立ち上げ訓練・・・7
- 、 ボラセン運営スタッフの研修会・・・1
- 、 ボラセン運営スタッフ増員のための活動・・・1
- ・ 運営スタッフの研修は、ほとんど行われていない
- ・ ボラセンの立ち上げ訓練は毎年行っているが、ボラセン運営方法は行っていない
- ・ ボランティアコーディネータ教育を実施し会員を募集している
- ・ 自主防災組織協議会の中でボラセンの認知度を上げるようPRする

3、あなたの地域では、「ボラセン」を開設する場所は決まっていますか？

- 、 決められた場所がある（屋内・屋外を問わず）・・・8
- 、 決められていない、その他・・・1
- ・ ボラセンは本部だけでなく、サテライトも必要である
- ・ サテライトを含め設置場所、ボラセンの意義を地域の人たちに周知することが大切（被災地の人を支援するために、多勢の外部ボラが車などを利用して集まる）
- ・ 屋外であれば、雨・風の対策が必要。ボラの待機場所も検討する
- ・ ボラセンの管理部署は、パソコン、コピー機、電話を使用するので室内が理想
- ・ 場所は決まっているが使い勝手が悪いので場所の変更を申し入れている

4、あなたの地域では、「ボラセン」はどこが主体で運営しますか？

- 、行政が主体になる・・・・・・0
- 、社協が主体になる・・・・・・6
- 、ボランティア団体が主体になる・・・1
- 、その他・・・・・・2

- ・社協が主体だが、現実にはボランティアが担当する
- ・開設時は社協主体だが、通常業務が再開されると、責任者を残し後はボラに任せる
- ・災害救援ボランティア支援センター（福祉総務課）が場所、物を用意し、社協と FSV が運営する
- ・市監査部と社協が主体となって行う

5、開設時に使用する帳票、市街地地図、事務用品、資機材などを確保していますか？

- ・行政が毎年予算に基づき徐々に購入している
- ・社協で持っている資機材のみしかない
- ・社協、福祉センター、行政にある資機材を使用する
- ・ボラセン専用の持ち物はすぐに使用できるように整理している
（掲示物はパウチされ、その他の物もケースの中で種分けしている）
- ・共用のものはきちんと線引きされて、勝手に持ち出されないための対策が必要
- ・パソコン・コピーを使用する場合は、発電機、予備ガソリンを準備する
- ・ボラセンで使用する資機材を保管する倉庫を、市から借用しそこで管理している

6、あなたの地域では、災害発生から、何日後に開設できますか？

- ・3～7日ぐらいを目途にしている
- ・発災後は地元のことを優先に行うのですぐには駆けつけられない
- ・3日後を考えている

7、あなたの地域では、開設時にスタッフは何人ぐらい集まると思いますか？

行政	2名	10名	0名	2名	8名	1名	3名
社協	15名	6名	3名	7名	13名	6名	5名
災害ボランティア	20名	0名	20名	5名	5名	3名	10名

- ・NPO 神奈川、日赤ボラなども入り普段から関係を作っている
- ・行政、社協の人は、職場のマニュアルにボラセン担当者として明記されていることが大切
- ・ボラセン担当者であれば2～3日後なら集合しやすい
- ・ボラセン運営の研修をして運営方法をよく理解していないと、外部ボラが混乱する
- ・地元の対応が優先されるので、すぐに参集するのは難しい
- ・地域防災計画から、特定のボラ団体名を外し、人材の確保を目指している

8、ボラセン運営協力者は、全員「ボランティア保険」に加入していますか？

- ・ボラセン協力者は、登録するときに保険に加入してもらう
- ・ボラセン本部は全員加入しているが、サテライトの人はあまり加入していない
- ・サテライトや避難所で協力する、地元の駆けつけボラのケガも要注意である
- ・住民が災害時に近隣を支援してケガをした場合も課題になる
- ・災害ボランティアは、行政で保険の面倒を見てくれる

9、あなたの地域では、「被災者のニーズ」をどのようにして集める予定ですか？

- ・電話だけでなく学校単位、地区社協単位でニーズを集めボラセンに届く
- ・電話や避難所からボラセンに届く
- ・ニーズを避難所で集め、地域防災拠点経由でボラセンに届く
- ・ニーズを避難所で集め災害対策本部を経由してボラセンに届く
- ・在宅避難者の支援物資の依頼は避難所を経由して災害対策本部に行くので、ニーズも同じように避難所を経由した方が良い
- ・避難所にサテライトがあればより地域に密着した活動になる
- ・サテライトのスタッフは地元の人の方がニーズをうまく集めやすい
- ・下見が必要な場合があるので地元でニーズを集めたほうが、詳細な聞き取りができる

10、あなたの地域では、ボランティアを依頼場所へ、どの様に案内しますか？

- ・市や社協の車を利用する
- ・避難所を経由又は必要に応じてサテライトから依頼場所に案内する
- ・サテライトのボラは市の公認のボランティアであることの証明が必要になる
- ・市街地は広くないので徒歩の移動も可能である
- ・社協の業務再開までは車両の貸し出しはできる
- ・ガソリンが確保できないと車も自由に利用できない
- ・初動期はサテライト（各地区）からボラセンに迎えに行く
- ・落ち着いて来たらボラセン本部が指示して、ボラバスの人達又は車で団体行動をする人達はサテライトに直接来てもらう
- ・派遣場所の最寄り駅に迎えに行く（案内人を立たせる）
- ・地理を知らない人に、地図で説明するのは難しい

11、あなたの地域では、「外部のボランティアの駐車場・トイレ」は準備していますか？

- ・駐車場は予め掲示して、住民に周知しておく（災害時はスペースの奪い合いになる）
- ・駐車場が離れた場所なのでボラセンまで、バスでボランティアを運ぶ
- ・スーパー、コンビニなどと協定を結び利用させてもらう
- ・下水道が使えなければ、仮設トイレが必要になる（サテライトも同じ）
- ・簡易トイレは6基のみ、今後増やしていく予定
- ・現在の場所は駐車場、トイレも無理、ボラセンの場所移動を要望中

- ・ 駐車場、トイレとも準備していない
- ・ 駐車場はあるが、トイレは準備されていない
- ・ 体育館のトイレのみ、仮設トイレの計画はない

12、あなたの地域の、「ボラセン開設・運営」に関して何か困ったことがありますか？

- ・ 避難所とボラセンを管轄する行政担当部署が違うので連携が取れてない
- ・ 担当者が毎年入れ替えわるので、技術の継承が難しい
- ・ 年1回のワンパターンの立ち上げ訓練から脱皮が必要
- ・ ボラセン運営の研修もしないと質の向上が望めない
- ・ 複数ある他の災害ボラ団体との連携を模索しないと人員確保が難しい
- ・ 人材の発掘が必要である（高齢化も含め）
- ・ ボラセンの知名度が低いので、サテライトを避難所に設置するのを簡単に受け入れてもらえないかもしれない
- ・ サテライト、避難所、私設避難所を支援する地元の駆けつけボラや、住民が災害時に近隣を支援してケガをした場合の保険についても課題がある